



11月28日 西伊豆中学校防災訓練

12月定例会・臨時会

2～4

一般質問

6～13

議会の動き

14～15

研修報告ほか

16～17

議会だより、定例会一般質問動画は、西伊豆町ホームページでもご覧いただけます。



入湯税改正 倍額にアップ!

開催期間	12月2日から12月3日まで
審議した案件	町長提出議案 6件 諮問 1件 発議 1件
可決した議案	西伊豆町過疎地域持続的発展計画の変更 令和6年度浜川災害復旧工事変更請負契約の締結 西伊豆町税条例の一部を改正する条例案 令和7年度一般会計補正予算(第5号) 令和7年度介護保険事業特別会計補正予算(第1号) 令和7年度サンセットコイン事業特別会計補正予算(第1号)

こんなことが、決まりました。

西伊豆町過疎地域持続的発展計画の変更(全員賛成)

3年4月に過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の規定に基づき策定した7年度までの計画が終了することから、8年4月から13年3月31日までの計画を作成しました。パブリックコメントなどを計画案の中に盛り込み修正しました。

令和6年度 令和6年災害査定第3号(普)浜川災害復旧工事変更請負契約の締結 (全員賛成)

想定以上の湧水や台風による工期延長で、62万7千円を増額し、7262万2千円に変更します。

西伊豆町税条例の一部を改正する条例案(全員賛成)

入湯税を第143条第1号中150円を300円に改め、同条第2号中100円を200円に改めます。

問 旅館、ホテルの日帰り温泉は何件くらいか。

答 利用料金が5000円未満で100円、5000円以上で150円ということですが、件数の詳細は把握していません。

一般会計補正予算(第5号) (全員賛成)

歳入歳出にそれぞれ5340万3千円を追加し、予算総額は90億3826万3千円です。主な歳入は企業版ふるさと納税寄付金1500万円。主な歳出は水産業振興費委託料

1000万円。海藻生産試験業務委託は、シーベジタブルと企業版ふるさと納税を活用して、海藻生産試験を実施します。

問 企業版ふるさと納税寄付金1500万円のうち1000万円はシーベジタブルの委託料として利用しているが、寄付の時点で使用目的が限られていたのか。

答 企業版ふるさと納税は、元々そのような事業を実施する計画で進んでいました。

問 重点支援交付金658万9千円は、新聞ニュースで話題のお米券ではなく、サンセットコイン事業で行う財源か。

答 今、話題になっているお米券分は、まだ国から届いていませんので、これには該当しません。

西伊豆町税条例の改正で8年4月1日から入湯税が上がります。

入湯税は目的税として、①環境衛生施設の整備 ②鉱泉源施設の整備 ③消防施設の整備 ④観光の振興に使われます。

6年度の入湯税の決算額は3344万3600円でしたが、今回の改定により約2700万円アップが見込まれ、主に観光の集客などに繋がる観光関連事業に充当します。

西伊豆町介護保険事業特別 会計補正予算(第1号) (全員賛成)

歳入歳出にそれぞれ1億3025万4千円を追加し、予算総額は15億3825万4千円です。主な歳入は介護給付費負担金561万5千円。主な歳出は介護予防サービス給付費負担金490万円。要支援者の認定者数が増え、サービスの利用者数が増えたため、介護予防サービス計画給付費負担金を増額します。

問 印刷製本費の終活ノートは、いつ配布されるのか。

答 各地域のサロンで介護保険の説明をする際に、配布できればと考えています。

問 介護保険システム改修業務は何のためか。

答 7年度税制改正の給与所得控除において、物価上昇と就業調整に対応して、最低保証額が55万円から65万円に引き上げられたことによりそれに対応するシステムの改修を行うものです。

問 国の補助金は全額ではないのか。

答 介護保険は、国、県、町が共同で運営する制度です

ので、それぞれが財政負担します。

問 介護予防サービス給付費負担金で要支援の認定者数が増えた理由は。

答 新規の要支援の方が増えたのではと考えます。

西伊豆町サンセットコイン 事業特別会計補正予算 (第1号) (全員賛成)

歳入歳出にそれぞれ3096万2千円を減額し、予算総額はそれぞれ19億4803万8千円です。主な歳入は繰入金419万4千円。主な歳出は総務管理費419万4千円。8年度から、サンセットコインのプラットホームが変更することに伴うカードの刷新費用及び健康アプリシステム再設定業務委託費、並びにクレジットカード及びセブン銀行ATM手数料増加分を一般会計から繰り入れるものです。カード刷新費は、通常分の1万枚とイベント用5000枚の2種類の作成を77万円と見込みます。

問 新しい地域通貨カードの町民への周知はどのように行われるのか。

答 周知は広報誌、地区の回覧、ホームページなどで図っていく予定です。

8年1月12日でサンセットコインの5%還元は終了、1月31日でチャージの取扱いが終了、3月31日で現行のサンセットコインが終了し、4月1日から新しい地域通貨の利用が開始されます。

新しいカードの配布方法は、郵送を考えています。

人権擁護委員の候補者の 推薦 (全員賛成)

前任者の任期満了に伴い、山本方正さんを新たな委員に適任と認めました。



やまもと のりまさ
山本 方正 氏 (田子)

第4回臨時会

令和7年10月10日

一般会計補正予算(第4号) (全員賛成)

歳入歳出にそれぞれ、5055万5千円を追加し、予算総額は89億8486万円です。主な歳入は、国庫補助金72万円、公共施設等総合管理基金繰入金1373万5千円、旧合併特例債などの町債3610万円などです。

橋梁の長寿命化に係る定期点検の一部を職員による簡易点検に切りかえることで委託料を減らし、その分を老朽化した橋の補修工事に充てます。前回の点検で要対策とされた宮ヶ原地区の白石橋は、補修工事を前倒しで行う予定です。

問 橋梁定期点検の予算を減らして大丈夫か。

答 本年度から職員が研修を受け、小規模な橋は、職員による簡易点検に切り替えました。これにより減額できた委託料と国の補助金を合わせ、老朽化が進んでいる橋の補修工事を前倒しで実施するための費用に充てるものです。

送水管の切り直し工事費

2600万円

仁科地内町道整備工事、念仏川沿いの道路整備で設置す

橋の点検を職員で削減分を修繕へ

るボックスカルバートと、水道の送水管が干渉することが分かったため、安全に工事を行うための送水管の切り直し工事費2600万円を追加しました。堂ヶ島・田子地区へ水を送るメイン送水管であるため、不断水バルブを用いた工法で対応します。

問 念仏川沿いの道路整備で、水道管の位置は事前に分からなかったのか。

答 送水管の存在は把握しており、過去の写真などから回避可能と判断していました。しかし、現場確認で干渉することが判明したため、破損を防ぐ安全な工法、不断水バルブによる切り直し工事に変更しました。

安良里漁港の工事費

350万円

安良里漁港の浚渫・津波防

災事業である安良里漁港浚渫工事100万円と津波防災ステーション工事250万円は、県から事業費以上の契約を締結するようにと指導があり、契約額に合わせて予算を増額しました。

災害復旧町道の復旧工事費

750万円

町道今山線の法面崩壊箇所の災害復旧工事と、今後の災害に備える予算として、災害復旧費750万円を追加しました。

カツオ祭りサミット視察費

36万9千円

9年度に町で「全国カツオ祭りサミット」の開催を検討していることから、鹿児島県で行われる同サミットの事業内容などを視察するための旅費・車両借上料、36万9千円を計上しました。



職員の簡易点検が予定されている第1谷戸川橋(宇久須 柴)

県への意見書の提出

森の力再生事業の継続を求める意見書

「森の力再生事業」は、荒廃森林の初期整備を通じて「森の力」を回復させ、土砂災害防止や水源涵養など県民の安全・生活環境を守るものです。町の地域課題解決にも不可欠であり、持続可能な社会のために本事業の継続・推進を求め、意見書を提出することにしました。

1. 森の力再生事業の継続、推進すること
2. 静岡県内の荒廃森林の再生を推進すること

提出先は、静岡県知事です。

社会経済状況の変化により整備が困難となった荒廃森林に対し、民間による持続的な管理への移行を支援し、「森の力」を回復させることが喫緊の課題です。本事業の推進は、土砂災害の防止や水源涵養機能の向上など、県民の安全と生活環境を守る上で不可欠であり、未整備森林を抱える町にとっても、地域課題の解決に直結する極めて重要な取り組みです。よって県民の生命・財産と豊かな自然環境を次世代へ引き継ぐため、本事業の継続とさらなる推進を強く求め、一つの議会として、県に直接意見書を提出するものです。

議案の議決結果

賛成…○ 反対…× 欠席…欠 退場…退

会議名	審議した議案と主な内容 (議案名はわかりやすく変更しています)	堤主祐	土本直矢	中島健	磯清彦	河内ひとみ	山本豊	加藤タツ子	浅賀元希	仲田慶枝	高橋敬治	議決結果
10月臨時会	一般会計補正予算(第4号) [3145万9千円を増額するもの]	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可決
12月定例会	西伊豆町過疎地域持続的発展計画の変更について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可決
	令和6年度 令和6年災 査定第3号(普)浜川 災害復旧工事変更請負契約の締結について [契約額62万7千円を増額するもの]	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可決
	税条例の一部を改正する条例案について [入湯税を増額するもの]	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可決
	一般会計補正予算(第5号) [5340万3千円を増額するもの]	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可決
	介護保険事業特別会計補正予算(第1号) [1億3025万4千円を増額するもの]	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可決
	サンセットコイン事業特別会計補正予算(第1号) [3096万2千円を増額するもの]	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可決
	人権擁護委員候補者の推薦について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
森の力再生事業の継続を求める意見書(案)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可決

議長(高橋 敬治)は採決に加わりません。



つみ 堤 けい すけ 圭 祐 議員

組合立中学校検討の状況は (町長) 協議会を設置し進めていく

質問 組合立中学校検討の進捗状況は。

町長 中学校統合推進協議会設置要綱の制定が可決されたため、今後は協議会を設置して進めていきます。

質問 松崎町主導で検討が進んでいくことはないか。

町長 両町の教育委員会で協議をしながら進めており、統合後のランドデザインについても町が培ってきた教育理念や特色ある教育活動が失われることはないと考えています。

質問 保護者への説明会を開催する予定は。

教育委員会事務局長 方針案などが具体的にお示しできる段階になりましたら説明の場を設けます。

ロケ誘致成功の理由は

官民協調でサポート

質問 町のロケ誘致成功が注目されている理由は。

町長 役場や関係機関にまたがる申請をワンストップで

対応し、炊き出しや宿泊などを官民が協調してサポートしている点が、業界に浸透してきたことと考えます。

質問 撮影にともなうトラブルはあったか。また、トラブル発生時の対応策は。

町長 立入制限のクレームなどは軽微なものはありません。事前に関係者と連携し、トラブルを防いでいます。

産業振興課長 制作会社から「撮影規約書」や「権利処理確認書」の提出を受け、撮影保険に加入を確認して、ロケを受け入れております。

はんばた市場の経営は

現在は好調に推移

質問 はんばた市場の経営状況は。今後の戦略は。

町長 4年度以降は売上収入のみの経営で、7年10月時点で前年比の売上が約126%と好調に推移しています。8年夏以降にアルコール販売も検討しており、町内事業者ファーストを念頭に、町内だけでカバーできない分野は伊豆の産品を増やして顧客満足度向上を図ってほしいと考えています。



組合立中学校の候補地に挙がっている松崎高校

避難指示未発出の判断は (町長) 判断は正しかった



あさかもと き 議員
浅賀元希

質問 7月30日の津波警報後、避難指示を出さなかった判断が正しかったのか検証を行ったのか、また改善点や反省点はないか。

町長 本当に避難してもらわなければいけない時に効力を発揮させるためには狼少年をつくってははいけませんので判断は正しかったと考えます。検証は副町長を含め行いましたが、他の自治体を含め避難指示の効果があつたか議論をしなければなりません。

質問 町では避難所開設をしたところもあると聞いているが、放送をしなかった理由は。

町長 避難指示を出していないことから指定避難所を開設していないためです。

質問 7月30日の炎天下の状況を踏まえても津波避難タワーの新たな対策を検討しないのか。

町長 現在配備している資機材を活用して過ごしていただきたいと考えています。

質問 門扉は閉鎖していないと、いざという時に命を守れない、常時閉鎖に向け町長の強いメッセージを出してほしいがいかがか。

町長 常時閉めて下さいと各地区にもお願いをしていますが、中々ご理解をいただけていないのが現状です。

否決議員が工面とは

それなりの責任を

質問 木質バイオマス発電事業の中止により補助金を受けられなくなれば、町に関連市町から請求されること

はあると思います。その時には、払わざるを得ないが、そのお金の工面は否決された議員の皆さんでお考えいただきたいと思います。と発言しているが、その真意は。

町長 当然一つの大きな事業を否決したわけですから代案を持って否決されているものだと考えます。代案を県が認め、補助金に影響がなければ回避できると考えますが、その代案が出てきていませんので、それなりの責任を負っていただく必要があるとの考えです。



本当にこの状況で猛暑避難は大丈夫？



なかじま 中島 健 議員

観光大使制度の創設は (町長) お願いすることも

質問 観光大使制度を創設し、町の魅力発信の柱の一つとして位置づけていくことが、今後の町の観光PR戦略に、必要な取組であり、検討すべきではないか。

町長 いい方がいらっしゃった場合には、お願いすることもありえます。

情報発信の具体策は

データ検証を実施し改善

質問 町の観光振興施策の中で、情報発信力を強化する具体的な方策をどのように考えているのか。

町長 情報発信力を強化する具体的な方策といたしましては、地元事業者、住民学生など、地域の情報を発信する担い手を増やすこと、また育成することで、コンテンツの質を向上させること。誘客ターゲットに合わせた発信をすること。データ検証を実施して改善することを考えています。

ウニの資源循環は

収入の得られる取組に

質問 駆除したウニを資源循環する取組をどのように検討しているのか。

町長 漁協が行う駆除活動は、公金に頼らず自走させるためには、収入の得られる取組にすることが第一と考えます。夏場のウニの身入り、味が良いことは分かっており、このタイミングにまとめて漁獲したものをマーケットに流すことが重要と考えています。もう

一つ考えられるのは、釣りの餌に加工して販売することです。

釣り人に試験提供した際に好評を得ていますので、食用と釣りの餌用で検討するのがよろしいかと考えています。

質問 海・山・陸がつながる環境教育、観光体験、エコツーリズムを推進することを検討したらどうか。

町長 エコツーリズムの推進は、引き続き取り組んでいきたいと考えています。



町の情報発信の強化を

水力発電を代替え電力に

(町長) 県の承認が必要



やまもと 山本 豊 議員

質問 既存の東京発電(株)による水力発電と日本発電(株)による白川水力発電計画を駿河湾横断広域地域循環共生圏事業の代替え電力として活用できないか。

町長 既存の水力発電は、確かに再生可能エネルギーですが、本事業は県の承認が必要であり、木質バイオマス発電事業に代わる事業が既存の水力発電とは考えていません。白川の水力発電はいいと考えますが、県が地域課題解決の貢献と認めることは、現状難しいと考えます。

新たな分別品目の処理及び保管が難しく、焼却施設の広域化と併せて検討していきたいと考えています。

質問 ホテルや漁場から出る生ごみは、栽培に有益な肥料成分が豊富でポテンシャルは高く、カーネーション団地を活用した堆肥化事業の検討は。

町長 こちらの用地は、ほとんどが使用されているため、残された土地の面積では不可能です。ガソリンを使って仁科、田子から持って行くことでCO2を排出することにもなります。仮にやる

のであれば、ある程度町場の近くでないと事業的には難しいと考えています。

質問 地域拠点型リサイクルステーションは、就業や育児、介護など様々な事情から、資源ごみを排出することが難しい家庭にとって大きな助けとなります。空き家や空き地の有効活用、町のアメニティ、生活の質の向上に直結する施策と考えるかいかがか。

町長 9月定例会でも地区の協力や、土地や場所を提供していただければ、町はやぶさかではありませんと答弁しています。

減量化・資源化は

可燃ごみの減少を

質問 南伊豆地域清掃施設組合の解散に伴う廃棄物の減量化・資源化は。

町長 容器包装プラスチックなどを分別品目として追加し、可燃ごみの減少を図りたいと考えていますが、クリーンセンターの敷地内は、



環境にやさしい水力発電



つちもと なおや
土本直矢 議員

主要公共施設などの高台移転は (町長) 子供たちの通う施設を優先

質問 津波浸水想定区域内の主要公共施設などの高台移転に向けた長期計画や、優先順位の整理を行っているのか。

町長 子供たちの通う施設を優先的に進めていますが、先に進んでおりません。その後の施設の計画はありませんが、基本的な公共施設の順位からすると、幼保小中のめどがついた暁には、公共施設の防災部門と電算部門を優先とし、その後に本庁機能の対応になるかと考えます。

行政サービス維持は

社会人経験者の採用

質問 人口減少が進み、今後10年で職員の大量退職期を迎える一方、若手職員の早期離職も増えている。人員が減っても行政サービスを維持するための方法は考えているのか。

町長 今後10年程度で退職期を迎える職員が多いことは

間違いなく、そのことを考え、今までも随時職員を採用しています。これまでは、主に新卒者の採用でしたが、積極的に社会人経験者の採用を考えています。また、情報の集約や議事録などは、AIを積極的に活用し、職員の負担を軽減するよう進めています。起案や伝票は電子決裁で、会議や研修はウェブを活用し、業務の効率化を図っています。

電力債購入の法的根拠は

総務省に照会し確認

質問 合計約32億円規模の電力債を購入する行為は、実質的には財産の取得に該当する可能性が高いと考えるが、議会の承認を要しないものとして購入した法的根拠は。疑義が生じる状態にないか、弁護士、総務省への確認は。

会計管理者 地方自治法の規定を根拠として、公金の管理及び運用に関する取扱い要領に基づいて行政案件として法的に問題ないとして取り扱っています。なお、顧問弁護士、総務省に内容を照会し確認をします。



高台の「らんの里跡地」付近からの眺望

8年度の農業振興策は

(町長) 観光との連携や高単価作物の支援



いそ 磯 議員
きよ ひこ 清彦 議員

質問 8年度の農業振興策として、どのような方針、取り組みを考えているか。

町長 地域計画に基づいた、農地の適正管理を行いたいと考えます。また、観光事業との連携や、ふるさと納税返礼品にもなる高単価作物の栽培や、担い手への支援を検討したいと考えます。

耕作放棄地支援策は

まずは所有者の適正管理

質問 耕作放棄地の解消、有効活用のために、草刈りに補助を出すなど支援策を講じる考えはないか。

町長 耕作放棄地は、獣害の温床にもなるので、まずは所有者の方に適正な管理をお願いしたい。耕作放棄地の草を刈れば、就農してもらえらるとも限りません。耕作放棄地で耕作を始めて、耕作放棄地を解消してもらえらるなら支援も考えます。

質問 肥料、燃料など生産資材の高騰、高止まりで農業者の経営が非常に厳しい状況にあるが、町で支援する考えはないか。

町長 農業者の方だけに特化した形での助成をする考えはありません。広く町民の方に、サンセットコインでの物価高騰対策を行っていきたいと考えます。

鳥獣被害防止策の支援は

担い手を増やしたい

質問 農作物への有害鳥獣被害を減らすため、被害防止

活動への支援や体制をどのように整えるか。

町長 人間と動物の生活するエリアを分けるため、農村整備、里山整備を行いたいと考えます。担い手確保のために、猟友会会員を増やし、見回りの負担軽減のため、ICT技術の活用を検討しています。

質問 有害鳥獣捕獲後の処理、利活用にどのように取り組むか。

町長 町内に食肉加工場が1軒ありますので、そこを起点に、販路開拓やジビエ料理メニュー開発などに支援していきたい。



かつて盛んに栽培されていた金魚草



かわうち 河内 ひとみ 議員

医療機関や土日に特定検診を (町長) 受診しやすい環境づくりに努めた

質問 特定健診の受診は日程が限定されており、住民が身近な診療所や病院で受けることができない状況である。医療機関での受診や土日の検診の実施の検討は。

町長 医療機関での受診は、医師会の事情により実施には至っていませんが、5月18日と25日の日曜日に特定健診とがん検診をセットで行い、受診しやすい環境づくりに努めたところです。

後期高齢者のドック助成は

解決すべき課題がある

質問 後期高齢者の人間ドック、脳ドックの補助事業は、近隣では、松崎町、東伊豆町、伊豆市、伊豆の国市が行っている。来年度から、ぜひ町長として、町民の健康寿命延伸にリーダーシップをとり、医療費や介護費削減と、健康寿命を延ばすために、後期高齢者に対する人間ドック、脳ドックの補助を検討すべきではないか。

町長 財源の確保など解決すべき課題があると認識しておりますので、現時点で実施する考えはありません。

身寄りのない方の支援は

関係機関と協議へ

質問 身寄りのない方の入院、退院や死後の業務などの支援体制を、町としてどのように構築するのか。

町長 補正予算で、終活ノートを購入するための費用を計上しており、終活ノートを配布することで、元気なうちに何かあった場合に備えることの重要性を周知していきたいと考えます。またサポート体制につきましては社会福祉協議会など関係機関と今後協議をしていきたいと考えています。



導入を予定されている終活ノート

津波災害警戒区域の指定は

(町長) 逃げる状況が整った時点で



なか だ よし え
仲 田 慶 枝 議員

質問 県は津波による人的被害を阻止するために、警戒避難体制を特に整備すべき土地の区域に津波災害警戒区域を、さらに津波災害から住民の生命及び身体を保護するために、一定の開発行為及び建築などを制限すべき土地の区域を津波災害特別警戒区域に指定している。町の津波防災地域づくり推進計画には津波避難困難区域を解消した上で指定を受けるとあるが、いつ受ける予定なのか。

町長 南海トラフの巨大地震による津波で町民の半数が犠牲になる想定となっていますので、町の推進計画の基本的な方針は、まずは命を守るための避難行動の促進や避難場所の整備などを優先的に進めています。津波避難困難区域に津波避難タワーを建設していますが、避難誘導標識の整備を並行して行っています。各地区で終了すれば、逃げる状況が整うということなる

ので、これをもって県に伝えたいと考えています。

建築物のすみわけは

平時には難しい

質問 町の公共施設のほとんどは津波浸水想定区域内にある。宅地面積が1.57km²であるのに津波浸水想定面積が2.5km²という当町ではすべてを津波浸水想定区域外に建てることは難しい。建築物のすみわけは考えないのか。

町長 平時では難しいと考えます。被災してしまった後

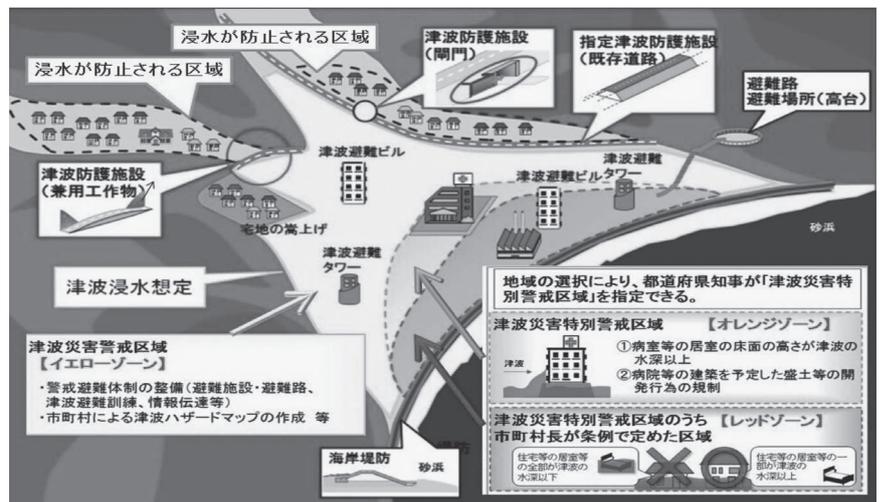
の復興計画では念頭に置いてやらなければいけないとは考えています。

ソフト面の対策は

防災講座や訓練で

質問 津波災害警戒区域の指定を受けていない今、ソフト面の対策はどんなことをやっているのか。

町長 講師を招いて各地で避難所運営訓練や防災講座を行っています。地域の防災訓練も住民が訓練をやっていてよかったと思えるものを行っています。



静岡県による「いのちを守る津波防災地域づくり」のイメージ

議会の動き

第1常任委員会報告

10月8日に所管事務調査を行いました。

健康福祉課

健幸づくりプロジェクト

第7期介護保険料（平成30年度から令和2年度）の標準月額が7,000円で県下最高額となり、プロジェクトがスタートしました。

【ラジオ体操】

とじこもりや認知症などの防止にご近所型介護予防として平成30年から実施、現在では町内29ヶ所、約400名が参加しています。

【いきいき健幸体操教室・元気アップサポーター】

チームパルパル（伊豆の国市）と連携した介護予防教室で、サポーターは42名、5ヵ所で運動教室を実施しています。

【シルバーリハビリ体操】

地域おこし協力隊の理学療法士が携わり、住民主体の取り組みとして進めています。58名が指導士養成講座を修了しています。

【健幸マイレージ】

健幸づくりを支援する方、受ける方両方に貯まり、1冊ごとにサンセットコインが付与されます。

【健康アプリ まるけん】

10月時点で405人が登録しています。

介護予防の取り組みの結果、介護認定率は16.3%、介護保険料は5,400円に下がりました。



役場本庁前で行われているラジオ体操

窓口税務課

戸籍のフリガナ

これまで氏名のフリガナは戸籍上公証されていませんでしたが、5年の改正法により戸籍の記載事項に氏名のフリガナが追加されます。

すでに通知書は発送済みですが、8年5月26日のフリガナ記載前までに改めて広報誌などで周知します。システムの改修は補正予算を組みますが、全額が国からの補助金対象となります。

町税の推移

人口減少と併せ、非課税者が人口の40%を占めることにより税収の減少が見込まれます。

所得控除も今後増える見込みで住民税が減少、人口減少による不動産価格の下落で固定資産税が減少、国民健康保険税と介護保険料も減少傾向です。たばこ税も元年の健康増進法の改正以後、状況が厳しくなり減少しています。観光客の減少で苦戦していた入湯税は来年度より税額を2倍にすることを検討しています。（※12月定例会で可決されました。）

町税徴収実績は6年度末で収入率96.03%で前年比0.14ポイントの増となりました。

第1常任委員長 仲田 慶枝

(戸籍の写しイメージ)		全部事項証明
本籍	〇〇市〇〇区〇〇町〇〇丁目〇〇番〇〇号	
氏名	法務 太郎	フリガナを記載します
氏のフリガナ	ホウム	
戸籍に記載されている者	[名] 太郎 [名のフリガナ] タロウ	

フリガナの届出は
書面、マイナンバー
どちらからでも
OK

1年以内に届出がなければ
市区町村長が
フリガナを記載します

戸籍にフリガナが記載されます

第 2 常 任 委 員 会 報 告

10月2日に所管事務調査を行いました。

環境課

クリーンセンターの現状

【焼却炉の仕組み】集中管理制御で各工程を安全に、そして確実に処理していきます。

【流動床式焼却炉】炉の下から空気を吹き込み、ごみと熱した砂とを攪拌して完全にごみを焼却します。

身近にできるリサイクルへの取組

自然のため・未来のための取組、リサイクル率は平成27年度13.9%、令和6年度は15.8%と上昇しています。平成30年度からミックスペーパーと古紙、古着をリサイクルに追加して、令和5年度から布団の引取りも始めています。

現在の傾向としては、平成27年度は段ボールと新聞紙、雑誌がリサイクルのほとんどの重さの率を占めていましたが、電子化に伴い令和6年度は新聞紙、雑誌の率は大幅に減っています。ミックスペーパーは皆さんのご協力により増加していることがわかりました。簡単に取り組むことができる3R（リユース、リデュース、リサイクル）を日々の中で取り入れることによって自然とごみを減らすことができ、自然環境を守る第一歩となります。



環境課の説明の様子

企業課

先川浄水場内施設について

【発電機更新工事】先川浄水場内、野畑中継ポンプ場内に設置されている発電機（A重油）を屋外設置型の発電機（軽油）に更新します。主に一色・中・堂ヶ島・田子地区へ停電時に配水するため発電機です。

工事名 令和7年度先川浄水場・野畑中継ポンプ場発電機更新工事

工期 7年9月1日～8年3月19日

工事費 1億230万円

新正円配水池

仁科地区へは、仁科第一・第二水源から井戸水を汲み上げた後、平成25年度に完成した新正円配水池を経由し配水しています。

新正円配水池へ繋がる山の斜面配管は全て耐震管を使用しており、第一水源は津波等で被災後早急に復旧出来るよう平成26年度に高圧地上式ポンプから低圧水中ポンプへ変更しました。

第2常任委員長 加藤 タツ子



新正円配水池の見学の様子

第2 常任委員会と各種団体との意見交換会

商工会

【日程】 11月14日（金）午後1時30分

【参加者】 商工会役員5名 事務局3名

【状況】

賃上げや生産性向上を支援するための専門家派遣、事業承継計画づくりや事業継続力強化計画の作成支援、全国物産展への出展や特産品ブランド化、各種補助金を活用した町内消費の喚起など、現在取り組んでいる重点事業の説明がありました。また、空き家解体補助や移動販売車への補助、スクラッチ事業による消費喚起は、商工会が窓口となって手続の簡素化や周知に協力していくことが確認されました。

【課題】

後継者不足や事業承継の難しさ、人口減少に伴う会員数の減少、人手不足など、小規模事業者を取り巻く全国共通の課題が西伊豆町でも深刻になっていることが共有されました。また、空き家の増加や買物弱者への対応、水道・電気・建具など生活インフラを支える事業者の高齢化と減少により、今後の地域の暮らしをどう支えていくかが大きなテーマとなっていることも話し合われました。併せて、ふるさと納税の返礼品との連携強化や、県への要望活動に議会も一緒に参加し、国・県の支援制度を積極的に活用していくことが今後の課題として挙げられました。

観光協会

【日程】 11月14日（金）午後3時

【参加者】 観光協会役員5名 事務局1名

【状況】

現在、町の補正予算を活用し、観光協会では団体バス向けのキャッシュバックによるバス誘客キャンペーンや、じゃらん・楽天などでの宿泊クーポン事業など、即効性のある誘客策に取り組んでいます。また、「夕陽のまちづくり」事業の一環として専門コンサルタントと連携し、インバウンド戦略の検討や、西伊豆の魅力の整理・ブランドづくりにも着手しています。

【課題】

コロナ禍以降の団体バスツアーの減少により、観光施設や土産物店・飲食店の売上が大きく落ち込んでいること、個人客は戻りつつあるものの単価が上がらず、閑散期の経営が厳しいことが課題として挙げられました。加えて、インバウンド誘致で出遅れていること、バス運転手不足や運賃高騰、堂ヶ島周辺の駐車場不足などアクセス面の課題、海だけでなく山や農業も含めた通年観光づくりと、それを担う人材不足といった点も共有されました。今後も、観光協会・事業者・町・議会が情報を共有しながら、中長期的な観光戦略を一体となって検討していく必要があることを確認しました。

議員と経済5団体との意見交換会

11月10日、木質バイオマス発電事業の中止に関する要請を受け、経済5団体（観光協会、商工会、堂ヶ島温泉旅館組合、伊豆漁協仁科支所、いなずさ林業）と議会との意見交換会を開催しました。団体側からは、森林整備や地域のエネルギー確保、温泉燃料費対策などへの期待があったこと、総合計画などで柱とされてきた事業が、なぜ議会ですら中止判断となったのか経緯を知りたいとの意見が出されました。議会は、津波浸水想定区域での立地、

安全性や採算性、燃料チップの安定調達、住民合意のいずれも十分とは言えず、将来のリスクが大きいと判断したことを説明しました。あわせて、今後も再生可能エネルギーや森林整備の方向性自体は否定せず、別の手法も含めて検討していくこと、大きな事業については計画段階から町・議会・各団体が情報共有し、対話の場を設けて進めていく必要性を確認しました。

広報編集副委員長 土本 直矢

賀茂地区市町議会議員研修会報告（10月10日東伊豆町）

東伊豆町役場で開催、下田市・賀茂郡下議会議員58名が参加しました。

伊豆半島の防災について…近年の災害に学ぶ」

跡見学園女子大学教授 鍵屋 一 氏

伊豆半島は、海に囲まれ道路に限られる半島特有の条件を持ち、地震・津波・土砂災害で一度分断が起きると、救援や医療、物資の到着が遅れやすい地域です。能登半島地震の教訓は、私たち伊豆半島にとっても他人事ではありません。特に高齢化が進み在宅の割合が高い地域では、住宅被害や停電・断水が避難生活を長期化させ、災害関連死に繋がるリスクが高まります。

命を守る基本は安全な場所に早く逃げることで、そして自力で避難が難しい方は地域と一緒に逃げることです。そのために重要なのが、要支援者を事前に把握し、支援する人・支援方法を具体化する個別避難計画です。計画は完成度よりも、作成過程で顔の見える関係をつくり、訓練と振り返り

を重ねて更新していくことが大切です。

議会としても、地域の声を集約し、行政・福祉・住民の連携が進むよう提案と検証を重ね、災害に強い町づくりを後押ししたいと思います。町民の安心安全な生活を守り防災力を高めていく必要性を認識し学ぶことができました。

第2 常任委員会委員長 加藤 タツ子



賀茂地区市町議会議員研修会の様子

姉妹町富士見町議員交流会報告（10月21日、22日）

議員と事務局が富士見町を訪ね、施設視察と議員交流会を行い有意義な訪問となりました。

【富士見町役場表敬訪問】

富士見町の正副議長と事務局職員に、議場のほか議会関連施設や庁舎屋上からの富士見町の全景を見ながら、土地利用や開発計画の説明をしていただきました。今回初めて訪問した新人議員は、富士見町のポテンシャルの高さに驚かされました。

【富士見高原リゾート】

麓から高台までは、レールが敷かれたゴルフカートに乗り、道中の景色を堪能し、高台からの風景に感激しました。またカートは堂ヶ島のトンボロの道中に活用できないかとの声も漏れていました。

【議員交流会】

富士見町議員と町長の参加のもと、初顔合わせの方が多く中でしたが、両町が抱えている問題を真剣に語りながらも和やかな交流会となりました。

【富士見町パノラマスキー場】

スキー用ゴンドラで登った入笠山山頂から見下ろした景色は、前日、富士見高原リゾートから見た景色と全く違い、田畑が一面に広がっていました。富士見町の広大な平坦地形に、発展の可能性を感じ羨望の眼差しを向けてしまいました。

副議長 浅賀 元希



パノラマスキー場からの風景

今回は田子在住のお二人の方に依頼しました。

たごせばまいがん 田子瀬浜海岸

田子瀬浜海岸は、透明度抜群の海と穏やかな入り江が続く、ダイビング、シュノーケリングなど、多くの海水浴客の訪れる、人気の海岸です。

田子瀬浜海岸の近くの尊ノ島は無人島で、海岸から無人島に泳いで渡れると言うのも、人気のひとつになっています。尊ノ島には、事代主神が田子を訪れた時、島に腰を掛け釣りをし、夕方近くに、大きな黄金色の鯛を釣



なかじま みよこ
中島 美代子 氏

5年前から西伊豆町の自然に魅了され移住してきました。

り上げ、「これは祝福のしるしこの海は長く豊かであり続けるだろう。田子の人々よ海を讃え、豊かな恵みに感謝して暮らしなさい。」と言われ田子の人々は、「この島は尊い方が腰をかけ、海を祝福した。これからは、尊ノ島と呼ぼう。」という名前の由来となった昔の逸話が残されています。この逸話が教える美しく豊かなこの海への感謝を忘れずに、田子の海を大切にしていきたいと思えます。田子瀬浜海岸の海に向かって右側の高台には、事代主神の石像が今も田子の海を見守っています。ぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。

ちごぎょうれつ 稚児行列

田子地区では、哆胡神社の秋の祭礼にあわせて、古くから稚児行列が行われています。男女問わず、7つの祝いとして、年長児が華やかな装束や白粉を塗るなどの化粧姿で、地域を練り歩きます。成長しつつも、まだまだ愛らしいお稚児さんの姿を地域の方々にお披露目し、盛大にお祝いされます。冠や草履など慣れない衣装に着飾り、親子で手を繋いで練り歩き、沿道に立つ方々からお祝いの言葉をいただいた記憶はいつまでも残り、たくさんの祝福と愛情を受け



はなだ まりこ
花田 麻莉子 氏

伊豆海認定こども園保護者会副会長
三児のママです。



た幼き日の良き思い出が郷土愛へとつながっていると思います。少子化が進む社会でありますが、哆胡神社と地域、そして子供たちを繋ぐ、この伝統行事が次世代に継承されることを、子供たちの成長とともに願っています。

少子化が進み、これまでは田子の子供たちだけの参加でしたが、4～5年ほど前から伊豆海認定こども園に通う他地区の園児や田子出身の親御さんが子どもと一緒に参加しています。

令和8年1月15日 発行
編集 西伊豆町議会 広報編集委員会
発行 静岡県西伊豆町議会
住所 〒410-3514 静岡県賀茂郡西伊豆町仁科401-1
TEL(0558)52-1962 FAX(0558)52-1906

【編集委員会より】

本号のご感想や議会に対するご意見・ご要望など、気軽にお聞かせください。TEL：52-1962